

またあいつ

精像宗字題

第88号
令和8年3月1日
発行 者
福島県公立学校
退職 校長 会長
北会津支部 次
菊池 芳次

部活動を学校から

手放して本当にいいの？

副支部長 川 島 宏



現役時代、幾つかの部活動顧問をされていたでしょう。大変でしたか。楽しかったですか。私は三校でサッカー・野球・陸上の顧問をしながら特設陸上・水泳・駅伝・スキーの顧問でした。休みが無く夏休みや冬は、県々全国大会とそれに付随した強化練習会や合宿が続くので、家内からは「今度帰るのはいつですか」とよく聞かれました。今振り返ると忙しかっただけで楽し

かったですよ。

以後、運動部に特化して話しますが、二十数年前県教委に勤務していた時、教育課程の移行の時期で『運動部活動に関する調査研究報告書（建議）』をまとめ『総合型地域スポーツクラブ』の立ち上げにも携わりました。その後平成二十年一月の中央教育審議会の答申を踏まえ学習指導要領及び解説の保健体育編には「部活動については、学校の教育課程との関連が図られるよう留意すること」と新たに明記されました。それが今、部員の減少・教員の多忙化防止・働き方改革の名の下に部活動は大きな転換期にあります。欧

米のスポーツクラブと違い、日本は嘉納治五郎の推奨により学校教育の一環として指導してきたその意義は大変大きなものがあります。現在の小中高等学校の児童生徒達は、原発事故やコロナの影響で満足に運動ができなかったのに、その上お金のない子らは好きな運動もできなくなるのですか。

会津若松市は、部活動は無くさないとして、土日のいずれかを地域に委ねています。その一翼を担っているのが熱意ある多くの教員です。部活動は、学力テストでは測れない喜び・悔しさ・涙・創意工夫・協力等々心を豊かにする人間形成の場であり、社会人としての重要な能力を育む隠れた教育の場です。スポーツを通してお互いを尊敬信頼する心が世界に広まれば、きっと平和な世界を創ることができるといえるでしょう。スポーツの持つ無限の可能性と感動のために、部活動を学校と地域社会をつなげる接点にして、学校から部活動を安易に手放さないでほしいと節に願う今日この頃です。

悠悠植物画展

齋藤 秀一



ランキュラス



桐の花

私の趣味には、サクセス演奏や木材を加工し家具作りをするDIYなどがある。中でも今夢中になっているのは、植物を綿密に描く植物画（ボタニカルアート）だ。実家には、ホルベイン社の透明水彩絵の具や、二人の息子がプレゼントしてくれたダーウエント製色鉛筆他等が有り、それらを使って作品を描いている。

そもそも絵は描くのも観るのも昔から好きで、よく田舎の風景をスケッチしに出かけていた。小学校の教員になってからも、その地の風景を描きに出かけることがままあり、疲れた心の癒しになっていた。

癒しになっていた。

「ボタニカルアート」に出会ったのは、附属養護学校勤務時代、文部省の教育研修で世界の教育現場を巡る傍ら、各地の美術館を訪れたときである。精密で繊細で緻密な描き方に衝撃を受けた。特に「ルドウーテ」のバラの絵の前では感激して暫く歩みが止まった。

帰国後、何度も真似をして描いてみた。中々清々しい仕上がりにならなかったが、回数を重ねるうちに、花のグラデーションや葉の陰影・重なり具合等、細かい部分まで描けるようになってきた。

母の介護も終わり、退職後に続いた学校関係の活動も一区切りがついた今、植物園や花屋さん巡りをしては気に入った花を見つけては絵筆を執っている。

これまで仕上げた描画数は百数十枚以上。それらは、土蔵の一階にDIYで製作した「ギャラリー」に飾り、年に一度開く作品展の時に来場する方々に観てもらい喜んでいただくことが私の生き甲斐になっている。

私と健康と

パークゴルフ

齋藤 賢一



スケジュール表に空白が多くなって久しいこの頃、「教育と教養」の大切さを身に染みて感じている。な

すべき用事(今日用)がある日は例えそれが通院でも野暮用でもなぜか嬉しい。先頃「2025全国パークゴルフ選手権大会」に参加した。北海道から沖縄まで地元相馬市に集まって競う年に一度の大きな大会。今年も四百七十名の参加者が八十一ホールを二日間こわたつて競った。精鋭たちとのプレーは独特の緊張感があり格別であった。

皆パークゴルフの魅力にはまり、自分たちの健康寿命の延伸が社会貢献の一つになるかの如く、日々パークゴルフを楽しんでいる連中である。当日、仲間に会いたくて来たというチャンピオン経験者に会った。脳梗塞でリハビリ中であった。また、会場まで来たが体調が悪くキャンセルせざるを得なくなった仲間も出た。我々の齢になると少しず

つ健康な状態から離れていっている。これを「未病息災」というらしい。私の場合、大腸ポリープを切除して三十七年。以来「一病息災」で胃と腸の直接撮影は欠かせない。お陰様で胃癌は早期発見でき、大腸ポリープは何回か切除し事なきを得ている。

の移動もできるだけ歩いて筋力の保持に努めている。パークゴルフを始めて二十年。今後も長く続けるためにいつまで運転できるかも課題である。「一病息災」で早目のケアに努め、「未病改善」につなげていきたい。そんなことを考えながら除雪をも運動として楽しんでいるこの頃である。

今在ることを想う

丹藤 勉



誰もが一度は考え想うことであろう。

我祖はどこからやって来て、この地に住み着いたのだろうか。墓は会津高田

町にある。そこに古くて頭が三角の私の身長程もある三基の墓石がある。誰のものだろうと思っている。発祥の地は会津田島町にある「丹藤」という地区であることはわかっていた。ではなぜ、高田の地に住み着くことになったのだろうか。

それは、天正十七年伊達氏と葦名氏の摺上原の戦で敗れ亡くなり、高田の地で

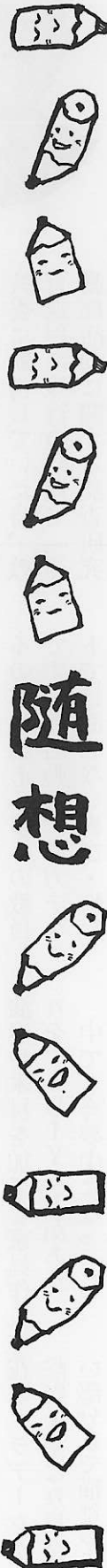
道樹山龍興寺に葬られた。墓石は残っているが、文字は読めず、寺も火災にあって過去帳を焼失しており、詳細は判然としない。このような経緯で田島の地から高田の地へ移り、住み着いたことがわかった。これらにあたっては、現地へ足を運び、納得することができたのだ。

会津藩史に登場する加藤嘉明公や伊達政宗公の戦い

も登場し、たのしめるものであった。ところが、現職時に勤めた西会津の地にも「丹藤」の姓があったのだ。それらの人々は、野沢の町で商売を営んでおられた。宿屋、薬局、醤油屋等々であった。こちらは、新潟県に発祥の地があるということである。

生活の主体が全く違い、同じ姓でも生活のし方がまるっきり変わっているのも

おもしろい。それぞれの地区の特性を生かし、日々の生活を営んできたのは、たいへん興味深く、おもしろく思うことができた。それぞれ、皆さんも、姓にはどのような歴史があるのか、調べてみられると楽しく生きられることでしょう。



随想

作物作りで感じたこと

君 島 秀 夫

—— 啐啄同時を目指して ——
 長年受け継がれてきた畑を荒らさないように、年間を通して作物を育てているのですが、なかなかうまくいきません。

これまでと同じようにやっているのに、思うように育ってくれないのです。畑の状況や気温、日照時間、水分等、違っているのですから、本当はそれぞれの作物をよく観察し、その状況に応じた手立てが必要なのです。そして、そのタイミングがとても重要であることを、最近ようやく分かってきました。

「啐啄同時」という言葉がありますが、相手のことを顧みず、よかれと思ってやってしまうのはお節介。相手が助けをほしがっているのに手を出さないでいるのは無関心、不親切。どうもこの、お節介と不親切が多くてうまくできないのではないかと反省しています。

我が家では、これまで長年作り続けてきた長芋の収穫時期になりました。



収穫した長芋

るかは、掘り出してみないと分からず、途中から三本になっていくものや、手や足の形に似ているなど、変形したものもあります。長芋は、少し強い力しかけただけで傷ついたり、折れたりしてしまいます。そのたびに長芋に対して、「ごめんなさい」と謝罪して作業をしています。だから、無傷で掘り出した時の達成感は、何物にも代えがたいものがあります。

今後も、張り潤いのある生活の心がけ、「くれない族」とか「老害」と呼ばれぬよう努めていきたいと思っています。

悠悠ひろば

振り向けばジジイ!

寺 木 誠 伸



振り向く前

週二回は何とかジムに！ジムでの滞在時間は運動五十分、着替えと風呂三十分計八十分、これが私に許されるフリータイムです。まずはストレッチ↓体幹調整マシン↓筋トレマシン五種↓ランニング↓ダンベル↓腹筋↓腕立て、これで終了。高血圧によりランニングは自粛モード。しかし、三十年ぶりに会った教え子に声をかけられたり、教員仲間にも再会したり、会うたびに血圧を確認し合うおやじ友達ができたり、日々のメンタル調整にはとても大切な空間です。仕上げは大きな風呂での、至福の時間と弛緩です。

過日、鶴ヶ城ハーフマラソン大会でわずか5kmの部に参加するために、ランニングマシンで必死の激走(死に走)が終わって振り向いたら、見知らぬ女性が後方の筋トレマシンから降りてきて、「すごいですね〜あん

なスピードで走るなんて」と褒めてくれました。速いのは最後の一分だけです。私が背を向けて走っている、振り向いたら年寄りだったからびっくりしたようです。そこで私が、「最近の私のキャッチコピーは、振り向けばジジイなんですよ」と答えたら、彼女は噴き出し、ずっと笑いが止まらない状況が続き、あまりの受け具合に「おいおい、いくら何でもそこまで」と思いつつ、さっとその場を後にしました。血糖値と血圧の上昇は止められませんが、新たな人間関係と話題づくりにはとても魅力的な時間です。

現退職校長会教育懇談会

懇親会

「会津百年の花

〜現代につながる

藩校日新館教育」

元会津美里町立本郷幼稚園長

鶴賀 イチ 氏



講師 鶴賀イチ氏

講師紹介

会津美里町立本郷幼稚園長、会津大学短期大学部非常勤講師、会津美里町教育委員等を歴任。「少女おけい」で北の児童文学賞奨励賞受賞。「恋するカレンダー」で福島県文学賞エッセイ・ノンフィクション部門正賞受賞。「会津涙痕草」で福島県文学賞小説・ドラマ部門正賞受賞。「会津百年の花」で福島民報出版文化賞奨励賞受賞。他

概要

会津藩士であった小川涉という人物と、彼が十六年の歳月をかけて執筆した『会津藩教育考』を中心に、幕末から明治にかけての会津藩の教育と精神についてのご講話であった。会津藩の教育機関「日新館」の設立背景や理念、仕の掟を含む教育システム、そして藩士の子弟だけでなく女子や庶民にまで教育精神が浸透していった過程を解説。戊辰戦争後の会津藩士たちが経験した苦難の歴史と、その逆境下で教育を最優先し続けた会津の特質、さらには自由民権運動の中で活躍した人物の事例を通じて、会津の精神がどのように受け継がれていったかも詳説。最後に、過去の教えを基礎としつつ、会津の教育の未来をどう築いていくかという課題を提起していただいた。質疑も多く、共に考えを深めることができた。

一 小川涉と『会津藩教育考』

(1) 小川涉の人物像と功績
元会津藩士で、十六年の歳月をかけて『会津藩教育考』(和綴じ七冊)を執筆し後世に残した人物である。会津でもほとんど知られていなかったが、平成十九年に復刊されたことをきっかけにその存在が知られる。

日新館の弓術師範の家に生まれ、日新館で学んだ後、江戸の昌平坂学問所へ遊学し、在学中に朝鮮へ渡る。鳥羽・伏見の戦いを機に戊辰戦争に参加。江戸での密偵活動後、会津戦争に参戦するも、庄内藩への応援要請の途中で敗戦を迎える。敗戦後は庄内、喜多方、新潟で謹慎し、新潟ではオランダ人カステルのもとで「今井恭介」と名乗り、英語や西洋学を学ぶ。明治二年に斗南へ移住した後、青森県で行政官や臈初の新聞記者として活動し、自由民権運動に関わり、政府批判の論説で投獄を繰り返す。獄中で会津のあり方を深く考え、明治十六年に『会津藩教育考』の編纂に着手。明治二十二年に会津へ戻り調査を続けるが、大病を患う。明治三十二年、編纂を手伝った佐野貞次郎の死を機に筆を置く。明治三十八年、完成した原稿を松平容保公の墓前に捧げ、「我、これがために生きる。死すとも恨みなし」と述べ、明治四十年に六十四歳で生涯を閉じた。

(2) 『会津藩教育考』の刊行と歴史的背景

涉の存命中に刊行されることはなかったが、死後二十四年、筆を置いてから二十三年後の昭和六年(一九

三一年)に発行された。刊行の背景には、昭和三年(一九一八年)の松平容保公の孫・節子と秩父宮との婚礼があった。これは会津にとつて「賊軍」の汚名返上を意味し、会津中が歓喜した。この婚礼は、戊辰戦争時に会津に同情的だった父の苦しみを和らげたいと願った貞明皇太后の思いによって実現した。

二 会津藩の教育システムと理念

(1) 藩校日新館の設立
寛文四年の「稽古堂」創設に始まり、天明の大飢饉を機に藩政改革の一環として寛政十一年に設立。「人づくりこそ国づくり」という理念に基づき、将来の危機に対応できる人材育成を目的とした。

(2) 学びを守り続けた会津の人々

会津藩では江戸や京都など各地に日新館分館を設置し、遠隔地の藩士子弟にも学習機会を提供した。また戊辰戦争後、謹慎や移住を余儀なくされた中でも勉学は絶やされなかった。斗南藩に移った際には、まず日新館を再建し、さらに十か所以上の分館や私塾が開設され、極度の貧困下でも教育が守られた。教育は男子だけでなく女子にも行き届き、会津女性

の教養水準は高く、明治期には多くの女性が社会で活躍した。

三 会津教育の未来への展望
会津の人々が困難な時代ほど学びを守り抜いた姿勢こそ学ぶべきである。教育は単なる知識伝達ではなく、社会と人間を支える根幹であり、会津の歴史はその象徴的な実例である。日新館の教えは、寺子屋などを通じて武士階級から庶民にまで浸透したと考えられる。容保公の「後々の人はいかに暮らしているであろう」という未来を案じる言葉や、小川涉の「教育の精神を継承してほしい」というメッセージを受け止め、次の百年に向けて会津の教育の「花の種」をどう蒔くかを考えることが、現代に生きる私たちの課題である。



講演会後の懇親会では、現代につながる日新館教育などについても話題としながら懇親が深められた。

あいづならではの教育

現職・退職校長会教育懇談会に参加して

会津若松市立神指小学校

校長 齋 藤 真 二

去る十一月十五日(土)に「現職・退職校長会教育懇談会・懇親会」が盛大に開催されました。前半の教育懇談会では、「会津百年の花」現代につながる藩校「日新館教育」と題し、元本郷幼稚園長 鶴賀イチ様によるご講演を拝聴しました。初めての参加でしたが、講師の鶴賀様が私と同じ会津美里町在住(旧高田町)と知り、より親近感をもって話を伺うことができました。

鶴賀先生のお話は、教育に携わる私たちにとって、これからの学校経営に大変役に立つものでした。中でも『会津藩教育考』の著者として知られる小川渉氏についての内容は、特に興味深いものでした。小川氏は、藩校日新館で学び、才学優秀のため選抜され江戸の昌



あいづっこミッション

平坂学問所に学んだ会津藩の英才の一人です。後に青森県に渡り県民のために尽力された方だということを知りませんでした。そうした状況下にあっても、故郷会津を忘れず『会津藩教育考』を執筆された小川氏の生きざまに感銘を受け、世に誇れる会津の教えを、私たちが守り伝えていかなければならないと感じました。私が勤務する神指小学校では、会津のすばらしい教えを子供たちに受け継いでもらうため、日常的に「あいづっこ宣言」を復唱し、「会津教育学びの心得」を教室に掲示しています。特に、この「あいづっこ宣言」を基にした「あいづっこミッション」という取り組みを、全校生あげて毎週行っています。これは、毎月あいづっこ宣言の中から一つの項目を重点的に選び、その達成状況をカードを使って振り

返る活動です。例えば今月の重点項目が「ひきょうなふるまいをしません」である場合、「人のいやがることをしません」という具体的ななめあてを立て、週ごとに一人一人が反省を行います。定期的な自分の生活を見直すこの実践は、子供たちがよりよい学校生活を送るための意識づけとして、大きな成果を上げています。鶴賀先生から学んだ会津の教育精神の重要性を胸に刻み、これからの教育にさらに生かしていきたいと考えております。

湊のたたら製鉄物語

会津若松市立湊学園

校長 高 橋 純 子

本校では総合的な学習の時間を「湊ふるさと・キャリア科」と呼称し、ふるさと湊町(会津若松市)を学びのフィールドとして、各学年テーマを設けて学習を展開しています。六年生のテーマは歴史です。その一環として炭焼き体験を行うようになって三年目となりました。

湊地区の複数箇所を鉄滓

が出土し、研究によって江戸時代以前から製鉄が行われていたらしいことが分かったのが、ここ十年前後のことだそうです。江戸時代中期に会津藩により編纂された『新編会津風土記』には、崎川浜で砂鉄が採れ農具や武器を作るのに適している」と記載があり、この地は日本刀の原料である玉鋼の生産地であったと考えられています。

もの作りの原点であるたたら製鉄を再現することで、自然、歴史、文化を守り、湊町のさらなる活性を目指そうと、たたら製鉄の実証実験に取り組みだした地域の方々がいまいます。七年前のことだそうです。炭焼き窯も再現し、製鉄のために必要な松炭を手作りする場に、子どもたちを誘ってくださいました。

そうして始まった六年生の炭焼き体験でしたが、湊学園開校にあたり「湊ふるさと・キャリア科」と整理したのを機に、たたら製鉄について学び、砂鉄や埋蔵文化財の遺跡を見に行き、町内に点在する鉄の神々が宿る複数の神社をフィールド

ドワークで回るといいうように、体験が広がってきています。今年の六年生は「湊は何もない所だと思っていんだけど、こんなにたくさん貴重な場所があるなんて、すごい所だ」と感想をまとめていました。

今秋の研修「会津百年の花」の中の鶴賀先生のお話で印象に残ったフレーズに、『地域を語る人に育てる』がありました。本校の教育活動においても、地域素材や地域人材のお力をお借りしそれらをつなげながら、ふるさと湊町に誇りをもち、生まれ育った地域やそこにいる人々を語れる子どもたちの育成に努めていきたいと考えています。その先どんな花が咲くのか、楽しみにしながら。



炭焼き体験

福祉部の事業

施設訪問

七月二十九日、十三名で大戸小学校に伺った。

大戸小学校は、令和五年度から「小規模特認校」となり保護者、児童の希望があれば、会津若松市内どの学区からも入学が可能となっている。今年度は学区外からの五名を含め、全校児童三十九名でスタート。

緑の少年団の活動も活発で、毎年学校緑化コンクールでは県の名誉ある賞を受賞している。加えて、平成二十九年には、ユネスコスクールに登録され、ESD



冠木利香校長先生

教育をも推進している。

大戸小学校長に就任して三年目の冠木利香校長先生は、「生徒指導に力を注いでいる。自分は愛されていると、子どもたち自身が実感できるような私たち教師の働きかけが重要」と語る。

子ども一人一人の様々な事情を理解しながら、愛情に基づいた指導支援によって、子どもの自己肯定感を高めることが狙いだ。そのため、自身のビジョンを丁寧に教職員に説明するとともに、大戸小学校で働く使命感を強く持つってもらうために、「大戸小学校は、不登校児が学校で学ぶチャンスを作っていること、会津児童園の様々な事情のある子どもたちの最適な学びの場を作っていること」などを話しているという。

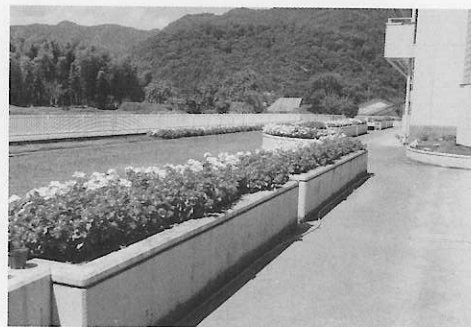
また、子どもたちに対しても、校長自らの語りかけを大切にしている。「ユネスコスクールでの学び」「授業を含めた日常の生活での学び」を価値づけして話していくことで、子ども

たち自身が、自分たちの学びを改めて認識するとともに、自己肯定感を高め、学ぶ意欲の向上を図っている。

そのような中、冠木校長先生は、課題についても次のように話された。「この制度を活用して、複式学級の解消を目指したものの、今年度は、完全複式学級となっていない。複式学級の経営経験がない教職員が多く、複式授業の知識、必要とされる技能を身につけなければならぬ」。このことについては、授業力向上の研修に力を入れることで解決を図っている。

ご説明の後、校舎の見学をさせていただいた。小規模であるがゆえに、各教室ゆったりとした雰囲気を感じた。全校児童で使うランチルームもあった。加えて、外の花壇整備のすばらしさには、感動した。「勉強も楽しかったけど、友達とじゃれ合うのがすごく楽しかった」「小さい学校だったから、ぼくはいろんなことに挑戦できたと思

う」これは、小規模特認校になってからの卒業生の言葉である。様々な事情のある児童の、充実した小学校生活が分かる。同じく小規模特認校の大戸中学校とともに、令和九年の義務教育学校設立に向け準備を進めている。



大戸小学校の花壇

憩いの集い

十月一日、会津大塚山古墳を題材に憩いの集いが十二名の参加者で行われた。

講師に会津若松市教育委員会文化スポーツ課の渋川駿主任主事をお迎えし、会津大塚山古墳を実際に見学する予定であったが、雨のた

め、一箕公民館で渋川主任主事の説明をうかがった。全長百十四mに及ぶ前方後円墳である大塚山古墳(国史跡)が発掘されるまで、東北地方には古い古墳はないだろう、東北地方の古墳は貧乏古墳だろうと思われていた。しかし、大塚山古墳の発掘でその形状や出土品などから、四世紀中頃の古墳と考えられる。三角縁神獣鏡をはじめとする豊富で貴重な副葬品は、当時の大和政権に関係する古墳と共通しているとのこと。興味深い話ばかりで雨が梅やまれるあつという間の一時間であった。



集いの様子

兼子 和男

愛車を常に手元においての生活。定年後は地域のボランティアの活動。現在92歳。体力衰え足腰弱るも、ゴミ出し、医者通い、買い物等に妻と一緒に利用している。今後もボケ防止のため続ける。

坂内 實

五年前に脳梗塞になり、六ヶ月間入院しました。退院後、後遺症のため歩行できなくなり、自宅では杖を突いて歩行し、外出するときは車いすを使用し、週三日デイサービス施設に通い、リハビリに努めています。

山内 嘉夫

傘寿から四年が過ぎ「囲碁」「散歩」「野菜の世話」でのんびり暮らしてきました。

いやなことは忘れ、楽しい暮らしを夢んでいます。同僚の囲碁仲間が増えればうれしいです。

渡部 久雄

家事一切を専らとしている毎日。その大変さを今頃になって知った。これを苦痛でなく、今の自分に与えられた大切な仕事と受け止め、穏やかに前進していると思っっている昨今です。

成田 正良

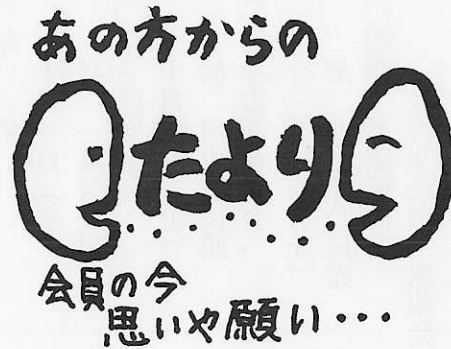
「丸くなるな、とがって生きろ」ある歌詞の一節。年を重ねて、丸くなるどころか、最近理不尽なことから、最近理不尽なことばかりでとがってばかり。しかし家の中ではすっかり丸く丸くなっています。

渡部 四郎

一日五回五問ずつのスマホのクイズに挑戦している。制限時間のなか、四問以上正解すると、「すごい」と評価される。これを毎回求めていくが、難しくて一日一回出ればよいとしている。

目黒 豊光

コロナが明け、県内や近県の川柳大会に出掛けることが多くなった。自句が抜ける嬉しさ、その都度増える柳友との出会い。あちこち緩みっ放しの老いの脳と身体には、誠に刺激的だ。



このコーナーでは、会員の皆さまお一人お一人から、近況や、今の思いなどについて、お寄せいただいております。

生まれ月順でお願いをしております。88号は、8月、9月生まれの方からいただきました。ご多用の中、ほんとうにありがとうございました。次回89号は、9月、10月生まれの方から頂戴いたします。ご協力よろしく願いいたします。

岡崎 敦子

庭を好きな花で埋め尽くしたいと、少しずつ植えた薔薇が立派に成長し、日々いろいろな色の花を愛でていきます。時々棘で攻撃して困らせてきますが、私の大切な友達です。

小野木 章

四年前、思い切ってクルーズの旅(十日間)をした。楽しくて毎年船の旅を堪能している。何一つない海、知らない人との出会いなど非日常の旅。来年も予約している。待ち遠しい。

菊池 芳次

退職して始めたこと、ソバ打ちと四アールの畑で野菜作り。家内と二人では食べきれず、近所、知人に強引にお裾分け。美味しかったと言ってもらえるように、これから精進したい。

渡部 好純

マイルームの本棚に本はなく、「国産名車」のミニカーと旧車のプラモデルの併せて二百余台が鎮座中。現在は日産ガゼールを制作中だが、根気不足と老眼のため完成はいつのことやら。

冠木 誠

會津稽古堂勤めも四年。週三日にすっかり慣れ、四日続けて出勤すると疲れている自分に気づかされます。体力維持を意識して体を絞りました。ダイエットするなんて若者みたい！

湯田 眞佐利

朝ドラに大河と、NHKにお世話になっていきます。見逃したら録画で、録画し忘れたらオンデマンドで。文明の利器をフル活用しながら、日々リフレッシュしています。

事務局コーナー

おめでとうございます

◇高齢者叙勲で

受章された会員

瑞寶雙光章

新井田 滋 雄 様

令和7年9月1日

北会津域内市町への

要望訪問

会津若松市、磐梯町、猪苗代町の各教育委員会に対し、次のような要望を伝えました。(訪問日 8月21日)

① 本県学校教育の復興・充実のため、県及び市町村との連携の下、将来を見据え、教育諸条件のさらなる整備・改善に努めていただきたい。

② 年金生活者や高齢者の生活再建・安定を図るとともに、年金制度及び保健・医療・福祉の充実、退職者の再任用や講師の登用等について、関係機関に強く要望していただきたい。

③ 児童生徒をはじめ、学

校、地域住民の安心・安全を担保するため、地域の特性を踏まえ、地球温暖化の影響による自然災害の激甚化や複合的な災害にも多層的に備えることができない実効的な対策を早急に講じていただきたい。

ご対応いただいた各教育長様からは、施策に関する現状と課題について、詳しい説明をいただきました。



磐梯町教育委員会にて

生前のご活躍に感謝申し上げますとともに、慎んでご冥福をお祈りいたします。

柏木 正義 様

令和7年6月27日ご逝去

原 康之 様

令和7年6月28日ご逝去

横山 敏明 様

令和7年9月9日ご逝去

野中 恒男 様

令和8年1月20日ご逝去

田澤 正敏 様

令和8年1月27日ご逝去

前号以降の主な活動

○施設見学研修

・ 七月二十九日(火) 於 大戸小学校

○第一回理事会

・ 八月十六日(土) 於 河東公民館

○域内市町への要望訪問

・ 八月二十一日(木) 於 各教育委員会

○憩いの集い

・ 十月一日(水) 於 一箕公民館

○第三回幹事会

・ 十月四日(土) 於 河東公民館

○会津方部連絡会

・ 十一月一日(土) 於 北会津公民館

○現職・退職校長会

教育懇談会・懇親会

・ 十一月十五日(土) 於 ルネサンス中ノ島

○県支部長会議

・ 十一月十四日(金) 於 吾妻学習センター

○新年会

・ 一月二十二日(木) 於 ルネサンス中ノ島

○第四回幹事会

・ 三月一日(日) 於 河東公民館

新年会を開催しました

一月二十二日(木) 文書配付事務の後、ルネサンス中ノ島にて新年会が行われました。十二名と参加者は少なかったのですが、情報交換をしたり、本会活動の充実について話をしたりと、とても楽しいひとときでした。



アラカルト

義務教育学校

本紙六面の大戸小学校の記事にも出てくる義務教育学校。平成二十八年に学校教育法の改正により作られた制度で、小学校段階にあたる前期課程と、中学校段階にあたる後期課程で構成されています。九年間の義務教育を一貫して行うことから、中一ギャップの解消、学力向上などが期待されています。

本県には、令和七年四月一日現在、市町村立で十校あり、そのうち会津には、河東学園、湊学園、本郷学園の三校が設置されています。

編集後記

ここ数年、猛烈に暑い夏が続いています。異常気象ではなく、これが当たり前になってしまったのでしょうか?もしかすると、日本は温帯ではなく、熱帯か亜熱帯になってしまったのかもしれない。

八十八号には、副支部長の川島宏様をはじめ多くの会員の皆さまから熱い思いのこもった素敵な文章をお寄せいただきました。夏の猛暑は人を不快な気分にしますが、お寄せいただいた文章は、会員の皆さまをきっと元気な気分にしてくれることと思います。

さて、今回、初めてAIの編集機能を活用してまとめたコーナーがあります。支部報「きたあいづ」は、新しい技術を取り入れるなどして毎号改善を加え進化しております。より良い支部報にするため、皆様の忌憚のないご意見やアイデアをぜひお聞かせください。よろしく願いたします。